

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年4月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、4月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



目次

目次	1
4月のトピックス5選	3
いちご親株の炭そ病簡易検定を実施	3
「ひめの凜」の良食味・高品質・安定生産に向け、栽培講習会を開催	3
施設なすに放飼した天敵昆虫が定着	4
ドローンを利用した水稻直播栽培の現地実証試験を開始	4
AI 選果機の「河内晩柑」選果機能実装に向けた取組みを開始	5
魅力発信！えひめ農業NOW(4月)	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
「新規就農の手引き～新居浜・西条版～」が完成	6
就農希望者等を対象に現地研修会を開催	6
サツマイモ先進農家ほ場視察研修を実施	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
学校給食米用の田植え体験を通じた地産地消の推進	7
■東予地方局 産地戦略推進室	8
花木栽培の高度化技術実証を開始	8
■今治支局 地域農業育成室	8
労働環境改善に向けアシストスーツ着用体験を実施	8
■今治支局 産地戦略推進室	9
肥料価格高騰に伴う単肥配合、廃液利用技術を実証	9
地元観光施設等での農産加工品のPR販売	9
■中予地方局 地域農業育成室	10
さといもの優良種芋増殖技術を指導	10
ユリの定植作業で農福連携を実施	10
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	11
水稻種子生産農家に対して基本管理技術を徹底	11
耕畜連携による麦わらの有効利用	11
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	12
久万農業公園の新たな研修生に対し支援開始	12
久万農業公園「クラインガルテン」で都市と農村との交流を支援	12
■中予地方局 産地戦略推進室	13
ワンチームで「甘平」の安定生産を目指す！	13
■南予地方局 地域農業育成室	13
根域制限栽培実証園地の土入れを指導	13
さといものセル苗増殖における生産量拡大に向けた育苗方法を指導	14
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	14
松野町産キウイフルーツ花粉の実用化試験を開始	14



■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	15
愛南町の青年農業者が今年度のプロジェクト活動を提案	15
「河内晩柑」の縮間伐による省力効果を確認	15
■南予地方局 産地戦略推進室	16
着果調査で今年のうめ生産量を予測	16
直売所向けスイートコーンの栽培指導を実施	16
「媛小春」の早期着果実証をスタート	17
■八幡浜支局 地域農業育成室	17
グループ活動の今後の在り方について意見交換	17
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	18
地区青年総会で鳥獣害対策の研修を実施	18
大洲いちご IPM プロジェクトチームを発足	18
大洲市青年農業者協議会が知事表彰を受賞	19
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	19
小麦・はだか麦の防除本格化に向けて	19
にんにくの産地化に向けた推進会議を開催	20
■八幡浜支局 産地戦略推進室	20
青ネギにおける排水改善・減肥に向けた緑肥作物の効果検証結果（1回目）	20
■農産園芸課 高度普及推進グループ	21
「ひめの凜」の栽培講習会の開催	21
麦の採種ほⅡ期事前審査の実施	21
さといも省力栽培に向けた最新の土壌消毒・作業機械実演見学会を開催	22

4月のトピックス5選

標 題	いちご親株の炭そ病簡易検定を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月14日、21日、25日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	いちご生産者（26人） （西条市、新居浜市、四国中央市）	連携機関	JA 東予園芸、JA えひめ未来、JA うま	
普及指導内容	○令和5～6年産のいちご育苗が本格化するにあたり、定植苗の増殖に使用する親株が既に炭そ病に潜在感染していないかを調べるため、簡易検定を実施した（325検体）。			
結果と今後	○5月上～中旬に検定結果が出る予定で、結果は迅速に生産者に報告する。 ○生産者からは、「炭そ病は経営に直結する病気、未然に対処できるのはありがたい」との声が聞かれた。 ○検定に加え、4月下旬～5月にかけて管内4JAのいちご部会生産者に対し、育苗講習会を実施する予定。栽培方法や病害虫対策に加え、昨年度問題となった暑熱対策を指導する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【いちご炭そ病簡易検定】 いちごの親株が炭疽病に潜在感染しているか調査する検定方法。 親株の最も古い葉の表面をエタノールで消毒し、温度28℃、湿度100%で2週間程度培養する。感染している場合、特異的な菌糸や胞子が発生する。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いちご親株の生育状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>簡易検定</p> </div> </div>				

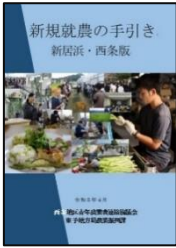

標 題	「ひめの凜」の良食味・高品質・安定生産に向け、栽培講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年4月28日	場所	今治市 各JA会議室	
指導対象	「ひめの凜」認定生産者（48人）	連携機関	JA 今治立花、JA おちいまばり 県農林水産研究所、県農産園芸課	
普及指導内容	○令和5年産「ひめの凜」の良食味・高品質安定生産の取組みをスタートさせるため、栽培講習会を開催した。 ○令和4年産の品質分析結果の個票を配布し、前年産の品質低下要因を解説しながら、令和5年産の生産技術対策を指導した。 ○県農林水産研究所と農産園芸課は、生育前半の分けつを調整し、適正な収数確保するための中干し開始時期（田植え30日後）の徹底や耕起、土づくり、適正水管理、適期収穫等について説明した。			
結果と今後	○参加者からは、「田植え30日後の分けつ数は具体的に何本か」「鶏ふん肥料の肥効パターンは」等、積極的な質疑応答があった。 ○管内では、令和5年度に約60haを栽培することとしており、引き続き各JAと協力し、生産ほ場の現地巡回等により適正管理の徹底を指導する。 ○6月下旬の中干し時期には、県関係機関と連携し、栽培講習会を開催する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：栽培マニュアルを説明する 農林水産研究所担当者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：食味分析結果を報告する 当室担当者</p> </div> </div>				



標 題	施設なすに放飼した天敵昆虫が定着		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月21日	場所	松山市森松	
指導対象	なす生産者（44人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○なすにおける天敵利用技術の普及に向け、地方局予算「なす産地強化対策事業」を活用して、昨年に引き続き本年も3月に天敵の放飼を開始し、約2週間間隔で害虫・天敵を調査し効果を検証している。</p> <p>○4月末現在、実証を行っている3ほ場においては、ハダニ類を捕食するカブリダニ類、アザミウマ類及びコナジラミ類を捕食するタバコカスミカメがともにハウス内に定着していることを確認した。</p>			
結果と今後	<p>○実証ほ場では、天敵に影響の少ない農薬の使用や、それを温存させるためにハウス内にクレオメを補植するよう指導する。</p> <p>○5月からは露地なすの実証も開始し、施設なすと同様に速やかな天敵の定着に向け、ゼロ放飼を徹底する。</p>			
				<p>【ゼロ放飼】 化学農薬等で害虫の密度をゼロに近い状態にして、天敵を放飼すること。</p>
天敵等の調査		なすと天敵温存植物のクレオメ		


標 題	ドローンを利用した水稲直播栽培の現地実証試験を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年4月13日	場所	管内水田（1地点）	
指導対象	水稲生産者、JA えひめ南等（計8人）	連携機関	JA 全農えひめ、農薬メーカー、ドローン委託業者	
普及指導内容	<p>○田植え作業の省力化を目的に、ドローンを利用したリゾケア種子（酸素、殺虫・殺菌剤等をコーティングした種子）による湛水直播の現地実証試験を開始した。</p> <p>○試験開始当日、本技術は、育苗・苗運搬が不要で、播種作業が1人で可能となり、大規模経営農家に適していることを生産者等に説明した。</p> <p>○また、湛水直播で最も重要となる鳥害対策として、重みを付けた当種子を用いて土中に隠れるような播種方法を実演し、ドローンの飛行高度5mで鳥害を防げる程度まで種子が埋没することを確認するなど、播種のポイントを周知した。</p> <p>○併せて、直播栽培における効果的な除草剤の使用法を指導した。</p>			
結果と今後	○今後、苗立ちや生育、収量、品質等の調査を行い、鬼北地域の土壌条件に合った省力的な湛水直播栽培の普及につなげる。			
<p>【湛水直播】 播種前に入水して代かきを行った水田に、田植えをする代わりに種もみを直接播く栽培方法で、省力化や低コスト化を図ることが可能。 酸素発生剤等の種子被覆と播種後の落水管理で、出芽・苗立ちの向上・安定化に一定の効果が見込まれる。</p>				
		粒剤散布機を装着したドローンで播種		粒剤散布機内のリゾケア種子

標 題	AI 選果機の「河内晩柑」選果機能実装に向けた取組みを開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年4月25日～	場所	八幡浜市保内町川之石	
指導対象	(株) NP システム開発	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○国のスマート農業加速化実証プロジェクトにより(株)NPシステムが開発したAI選果機に、「河内晩柑」の選果機能を実装する取組みを支援した。</p> <p>○これは、導入を検討している農業者の要望を受けて始めたもので、特に「河内晩柑」は、果実が大きく果皮が厚い等の理由により非破壊による糖酸検査が難しいとされ、県内で機能が実装された例はない。</p> <p>○当日は、様々な大きさの果実を集めて、選果機による検査と搾汁による糖酸分析を行い、検量線作成に必要なデータを収集した。</p>			
結果と今後	<p>○「河内晩柑」は出荷期間が長く、果実の貯蔵による経時変化等の影響を受けやすいことから、今後同様のデータ収集を2回行い、実装が可能か有効性を検証していく。</p> <p>○これまで経験に頼っていた「河内晩柑」の出荷区分について、新たな知見が得られることを期待している。</p>			
				<p>AI 選果機による 「河内晩柑」の糖酸検査</p>

魅力発信！えひめ農業 NOW(4月)

標 題	「新規就農の手引き～新居浜・西条版～」が完成		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月	場所	—	
指導対象		連携機関	JA：えひめ未来・周桑・東予園芸、新居浜市、西条市、西条地区青年農業者連絡協議会等	
普及指導内容	<p>○毎月第1、3水曜日に「周桑営農相談会」、20日に「西条相談会」と称した就農相談会を定期開催(年間相談実績約100人)している。</p> <p>○この度、関係機関に提案し、相談時に使用する就農支援制度等を取りまとめた参考資料「新規就農の手引き～新居浜・西条版～」を作成した。</p> <p>○手引きに、主要作物別経営試算表、新規就農者向けの新規事業や研修、制度資金等の紹介の他、昨年、当室が開催した就農初期農業者研修会や西条地区青年農業者連絡協議会の活動も盛り込んだ。</p>			
結果と今後	<p>○就農相談者からは「作物ごとの管内のリアルな数字が書かれているため参考になる」、関係職員からは「相談時に必要と感じた情報が掲載されているので使いやすい」との意見があがった。</p> <p>○この手引きは、就農相談時に配布するとともに、今年度の「就農初期農業者研修会」や「青年等就農計画」作成時でも活用していく。</p>			
				
	<p>左：「新規就農の手引き～新居浜・西条版～」 右：「手引き」を活用して相談者に説明</p>			

標 題	就農希望者等を対象に現地研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月4日～18日	場所	西条市内	
指導対象	就農希望者、農業研修生等(延べ15人)	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○農家アドバイザー(農業指導士・認定農業者協議会理事等)4人を講師に招き、現地研修会を計5回開催した。</p> <p>○研修会では、トマトやきゅうり等の施設見学の他、普及指導員と農家アドバイザーが栽培品目の栽培管理と経営のポイントを指導したほか、さといもの定植作業等を行いながら技術習得を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「就農時の栽培品目を考える上で大変参考になった」「時期を変えてまた見学にきたい」「所得をあげていく上で、施設導入も検討していきたい」等の声が聞け、農家アドバイザーからは「熱心に質問され、農業に対する本気度が伝わった。引き続き教えたい」との意見があった。</p> <p>○引き続き、農家アドバイザーと連携し就農希望者等の栽培技術習得に向け指導する。</p>			
				
	当室職員及び農家アドバイザーによる指導		こだわりの技術を学ぶ	


標 題	サツマイモ先進農家ほ場視察研修を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月17日	場所	伊方町塩成	
指導対象	サツマイモ生産者（1人）	連携機関	八幡浜支局地域農業育成室	
普及指導内容	○新居浜市大島特産のサツマイモ（白いも）は、近年、栽培管理不足や病虫害の発生等により生産量が減少しており、需要量の確保が課題となっている。そこで、安定生産及び拡大に向けた省力化技術の導入と貯蔵病害対策を検討するため、生産者とともに先進事例の視察研修を行い、技術習得を図った。			
結果と今後	○参加者からは、「栽培管理を見直す良い機会となった」「かん水頻度や貯蔵方法など今年度からできることは積極的に行いたい」との声があった。 ○視察研修を踏まえた今後の取組みについて生産者と打ち合わせを行うとともに、大島に土壌分析結果を踏まえた適正施肥量を検討するための実証ほを設置し、安定生産及び生産拡大に向けた技術確立を目指す。			
		<p>左：ほ場視察 右：苗の管理について 説明を受ける参加者</p>		


標 題	学校給食米用の田植え体験を通じた地産地消の推進		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年4月22日	場所	四国中央市土居町蕪崎 ほ場	
指導対象	市内小学校児童及び保護者(186人)	連携機関	四国中央市、JA うま、県農業共済組合	
普及指導内容	○同市地産地消推進委員会主催の「学校給食米田植え体験会」の開催を支援した。 ○当班から「イネの学習」として、粃播きから収穫までの生育過程や生産者の取組みを説明した後、参加者による田植えが円滑に進むよう指導した。 ○当日は市内小学校から101人の児童が参加し、保護者とともに柔らかな田土を素足で踏みしめ、歓声を上げながら「コシヒカリ」の苗を丁寧に手植えた。			
結果と今後	○参加者からは、「家でイネを育ててみたい」「地域の農産物を知り、食べることで感謝の心が生まれる」などの声が聞かれ、地産地消への意識の高まりが見られた。 ○なお、今回の田植え分を含め、市内47戸の生産者が栽培する水稻は、エコえひめ認証米「うまそだち」として、市内小中学生の学校給食に提供されるほか、産直市でも販売され好評となっている。 ○8月下旬には収穫祭として稲刈り体験を予定しており、今後も関係機関と連携しながら、地産地消・食育活動を推進していく。			




【四国中央市地産地消推進委員会】
市の地産地消を推進するため、県やJA、生産者団体、教育機関等で構成。学校給食に地域食材を提供するなど、地域農産物の消費拡大や食農教育の実践に取り組んでいる。
※市は令和4年3月に第3次食育推進計画を策定。



食農教育の一環として、田植えを体験

標 題	花木栽培の高度化技術実証を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月11日、19日	場所	西条市	
指導対象	花木生産者モデル農家(1戸)	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○花木栽培技術の高度化を図るため、主力品種（ピットスポラム、ビバーナム・ティナス、メラレウカ）の栽培技術の実証ほを設置した。 ○モデル農家のほ場で JA 担当者を交え、現在の問題点の把握と、生産量を高める管理方法について検討した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○ビバーナム・ティナスについては青い子実の着果促進技術、ピットスポラムとメラレウカについては、収穫できる枝数を多く出させるための樹形づくり・せん定方法について実証することとなった。 ○栽培技術の実証結果については、農家・JA へ周知し、技術の高度化を図る。 			
		<p>左・右：モデル農家との打合せ (左：ピットスポラム) (右：ビバーナム・ティナス)</p>		

標 題	労働環境改善に向けアシストスーツ着用体験を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年4月27日	場所	今治市 さいさいきて屋会議室	
指導対象	今治地区認定農家女性協議会（会長 井門さゆり）（14人）	連携機関	大信産業株式会社	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○労働環境改善に向け、同協議会の研修会において、アシストスーツの着用体験を実施した。 ○取扱業者の協力を得て空気圧利用による中腰姿勢の負担軽減に向けたアシストスーツを紹介した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者のアシストスーツに対する関心は高かったが、「重労働に長時間従事している若い世代の方が導入効果が高いのでは」との意見があった。 ○今後、腰や腕の労働負担軽減を図り農作業事故を防止するため、青年農業者等を対象とした着用体験会を計画している。 			
<p>【今治地区認定農家女性協議会】 今治地区の認定農家女性等が、農業の担い手として技術・知識の習得や情報収集活動を通し、農業経営に積極的に参加し、自らの経営の安定を目指すと同時に会員相互の連携を図るために活動。</p>				<p>中腰姿勢の負担軽減を体験する参加者</p>

標 題	肥料価格高騰に伴う単肥配合、廃液利用技術を実証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月19日、24日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者等（10人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○肥料価格高騰対策として甘長とうがらしの単肥配合及び廃液利用技術の実証を行うため、生産部会及びJA関係者に実証計画の説明を行った。また、実証農家には、実証に伴う養液配管の設置を指導するとともに、単肥配合で20年以上の経験を持ち高いレベルの技術を蓄積している管内のバラ生産者を調査した。			
結果と今後	○調査したバラの配合技術を参考に、アンモニア態窒素を減らすなど甘長とうがらしに適した配合を考案した。市販の液肥に比べコストを半額以下に抑えられる見込み。実証では併せて廃液の再利用を行うことで肥料コストのさらなる削減を目指す。 ○今後は、栽培実証を通して単肥配合及び廃液利用技術をマニュアル化するとともに、他品目への応用、普及に取り組む。			
  				
<p>実証農家との養液配管の設置に関する協議</p> <p>バラ農家の配合技術を調査</p> <p>生産部会、JA への実証計画の説明</p>				

標 題	地元観光施設等での農産加工品のPR販売		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月7日、13日	場所	大三島みんなの家（今治市大三島町）等	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ（会員25人）	連携機関	今治市、今治地域観光協会	
普及指導内容	○農産加工事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の会員と、地元観光施設等における常設コーナーの設置や、本年度県が事業化した「普及組織による戦略的流通販売促進支援事業」を活用した販路開拓について協議した。			
結果と今後	○地元ワイナリーが経営するワイン等の販売店「大三島みんなの家」に同グループの常設販売コーナーを設置することになり、4月22日から販売を開始した。また、県事業を活用してKITTE（東京都丸の内）でのPRイベントに参加することになった。 ○同グループでは、市内観光施設「タオル美術館」等での常設販売コーナーの設置を計画しており、販売条件や販売商品等について同グループ員と協議し進める。			
  				
<p>グループ員との協議</p> <p>ワイン販売店との協議</p> <p>常設コーナー（大三島みんなの家）</p>				

標 題	さといもの優良種芋増殖技術を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月18日	場所	県農林水産研究所	
指導対象	育苗農家（1人） JA えひめ中央営農指導員（3人）	連携機関	県農林水産研究所、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○さといも「愛媛農試V2号」における優良種芋の安定生産を確立させるため、親芋の副芽を利用したセル苗増殖技術を指導した。</p> <p>○第1段階として、副芽を斉一に発芽させるため、親芋の頂芽・腋芽を除去した後、培土を入れたコンテナへの伏せ込む作業を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今回、親芋を30個伏せ込んだことで、約450本のセル苗が確保できる見込み。</p> <p>○次回は、5月中旬に親芋から生じた副芽の切り出しとセルトレイへの植え付け作業を継続して指導する。</p>			



親芋の頂芽・脇芽の除去




伏せ込み作業




【セル苗による優良種芋増殖技術】
優良な親芋から出た副芽をセルトレイで育苗し、病害の感染リスクが低い種芋を増殖させる技術。


標 題	ユリの定植作業で農福連携を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月14日	場所	東温市	
指導対象	ユリ生産者（1人） 福祉事業所利用者及び支援員（3人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	<p>○生産者の労働力を補完するため、あぐり塾(就労継続B型事業所)との農福連携によるユリの定植作業を支援した。</p> <p>○本連携に至るまでには、生産者、JA、福祉事業所の意見や要望を調整し、スムーズに作業ができるよう計画した。</p> <p>○当日は、随時、進捗状況を確認するとともに、生産者、事業所利用者及び支援員が相互にコミュニケーションを取りながら作業するよう助言した。</p>			
結果と今後	<p>○予定していたほ場19aにおいて、2,400本の苗の定植を3時間で完了した。</p> <p>○生産者からは、5月下旬以降の除草作業も依頼したい意向があり、連携活動を継続することとなった。</p> <p>○今後、講習会等の機会をとらえ、農福連携による労働力補完事例として紹介し普及を図る。</p>			





左：生産者の声掛けにより、スムーズに作業する施設利用者
右：苗を定植する福祉事業所利用者



標 題	水稲種子生産農家に対して基本管理技術を徹底		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年4月25日	場所	伊予農業振興センター他	
指導対象	水稲種子生産者（30人）	連携機関	JA全農えひめ、県農林水産研究センター、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○令和5年産の水稲種子生産者に対して、栽培上の留意点を周知するため、採種地区ごとに研修会を実施した。</p> <p>○研修会では、土づくり、適切な栽植密度、水管理、生育後半まで葉色を維持する肥培管理、雑草対策、病虫害防除等の基本管理技術を徹底するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○令和5年度は、伊予地区管内で75人の生産者が40.7haで6品種（あきたこまち、ヒノヒカリ、ひめの凜、松山三井、しずく媛、媛育71号）の水稲種子生産を行う。</p> <p>○計4回の採種ほ審査において不合格ほ場が出ないよう、関係機関と連携し優良種子生産に向け栽培指導を実施する。</p>			
				基本管理技術の徹底指導

標 題	耕畜連携による麦わらの有効利用		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年4月19日	場所	松前町	
指導対象	はだか麦農家（2人） 和牛肥育農家（1人）	連携機関	中予家畜保健衛生所	
普及指導内容	<p>○中予地区において、はだか麦収穫後の麦わらは、その多くが土づくり資材として利用されており、これまでに家畜飼料として利用されることは無かった。</p> <p>○そこで、飼料価格高騰が畜産農家の経営を圧迫していることから、麦作農家と和牛肥育農家の連携を支援し、麦わらの有効利用と飼料コストの低減を図るよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○麦わらの量、保管場所、運搬方法、価格等について、麦作農家と和牛肥育農家の間で協議し、5月には試験的にマッチングを実施することとなった。</p> <p>○今後、麦わらの飼料適性を確認するため、収穫時のわらの水分や、梱包後の飼料成分の分析を行う。</p>			
				
麦作農家と和牛肥育農家が意見交換		ハイバラー（梱包機）		直方体に梱包された麦わら

標 題	久万農業公園の新たな研修生に対し支援開始		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年4月3日	場所	久万農業公園（久万高原町下畑野川）	
指導対象	久万農業公園研修生（3人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	○新規就農者の確保・育成を支援するため、同町営農支援センターが実施する研修事業に新たに加わる研修生を対象に勉強会を開催し、トマトの生理生態や育苗・定植技術等について技術指導を実施した。			
結果と今後	○研修生は、トマト栽培に関する技術の習得に意欲的で、熱心に学ぶ姿勢を見せている。 ○今後も定期的に研修生に対する勉強会を開催し、栽培技術の習得と向上を図る。			
			<p>受入式と併せて実施した勉強会</p>	

標 題	久万農業公園「クラインガルテン」で都市と農村との交流を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年4月16日	場所	久万農業公園（久万高原町下畑野川）	
指導対象	クラインガルテン利用者（13人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	○都市と農村の交流促進を図るため、同町営農支援センターが運営する貸付型市民農園「クラインガルテン」の今年度の利用者を対象に、野菜栽培の基本技術について講習会を実施した。			
結果と今後	○参加者は、野菜栽培に関する基礎知識や管理機の操作を熱心に学ぶとともに、今後の農作業に向けて気持ちを新たにしていた。 ○今後も定期的に「クラインガルテン」での技術講習会を開催し、都市と農村の交流を通じた地域農業の活性化に努める。			
			<p>左：「クラインガルテン」（市民農園） 右：管理機の操作を指導</p>	

標 題	ワンチームで「甘平」の安定生産を目指す！		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月7日～26日	場所	JA 会議室、生産者ほ場等	
指導対象	実証ほ生産者（10人）	連携機関	JA えひめ中央、JA 松山市 伊予農業指導班	
普及指導内容	<p>○「甘平」の連年安定生産技術の確立を図るため、裂果軽減対策等の実証試験に取り組んでおり、今年度の実証試験内容や園地候補等について、JA えひめ中央、JA 松山市の担当者と協議を行った。</p> <p>○候補地の生産者には、昨年度作成した「甘平の栽培改善事例集（中予版）」等を活用して、試験内容や期待される効果等について説明し、協力を依頼した。</p>			
結果と今後	<p>○JA や生産者と協議の結果、pF 計等を活用したかん水管理による土壌水分保持等を中心に、10ヶ所で実証試験を実施することとした。</p> <p>○5月に市町関係者等を含め、全体での情報共有を含めた試験検討会を開催し、中予地域一体となって、「甘平」の安定生産を目指す。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>左：「甘平」の栽培改善事例集 右：試験に使用するpF計</p> </div> </div>				

標 題	根域制限栽培実証園地の土入れを指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月12日	場所	宇和島市吉田町玉津地区	
指導対象	(株)玉津柑橘倶楽部（会員11人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○(株)玉津柑橘倶楽部は、豪雨災害からの復興推進の一環として、温州みかんの高品質生産や早期成園化が可能となる根域制限栽培の実証に取り組んでいる。</p> <p>○令和2年3月の定植以降、生育は概ね順調であったが、今後より一層の樹冠拡大を図るため、関係者で協議を行った結果、一定量土入れを行うことになった。</p> <p>○当日は、(株)玉津柑橘倶楽部の会員や JA 技術員とともに重機や一輪車を使用し、約10tの土入れを行った。</p>			
結果と今後	<p>○来年度の果実生産に向け、引き続き関係機関と連携して施肥や防除の徹底指導を行い、さらなる樹冠拡大を図る。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【根域制限栽培】 防根シート上に盛り土した培土に樹を植栽することで根の分布域を制限する栽培方法。根域を制限することで高糖度果実生産が可能。</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p style="text-align: center;">一輪車を使っでの土入れ作業</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p style="text-align: center;">土入れ後の状態</p> </div> </div>				

標 題	さといものセル苗増殖における生産量拡大に向けた育苗方法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月19日	場所	宇和島市三間地区	
指導対象	JA えひめ南 三間育苗センター職員	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○さといもの種芋生産では、健全な親芋から副芽を採取してセル育苗することにより、病害の感染率が低く、形質の揃った優良株の増殖が可能となる。</p> <p>○今年は、セル苗増殖による生産量拡大に向け、昨年より約1か月作業時期を早め、3月中旬に親芋を伏せこみ、4月中旬に副芽を萌芽させた親芋から芽を切り出すこととし、作業研修会を実施した。</p> <p>○当日は、苗揃いを良くするための副芽の切出し方法や、セルトレイ移植時の留意点等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○1つの親芋から約10個の芽を切り出し、セルトレイ29枚分(約1,400本)の苗を作出した。</p> <p>○今後、育苗期間中の温度管理等を徹底し、梅雨入り時期となる6月中旬の定植を目指す。</p>			







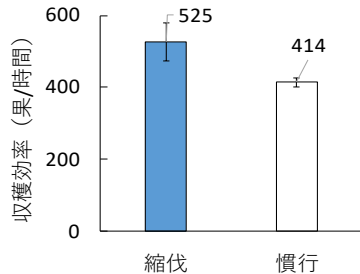
左：副芽の切り出し作業
右：ハウス内での育苗



標 題	松野町産キウイフルーツ花粉の実用化試験を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年4月6日	場所	県下主要キウイフルーツ産地(4JA)	
指導対象	JA 東予園芸、JA えひめ中央、JA 愛媛たいき、JA えひめ南	連携機関	県果樹研究センター、松野町	
普及指導内容	<p>○松野町で生産されたキウイフルーツ花粉の実用性と安全性を確認するため、県内主要4産地のJAに現地実証試験を依頼した。</p> <p>○試験では、昨年度、松野町の生産者3戸で初収穫された花粉とアメリカ産花粉の比較を行い、果実の生育や品質を調査する。</p> <p>○高品質な花粉を提供するため、県果樹研究センターから、湿度調整機能を有する袋状の花粉容器(株)アグリズ製で販売することを説明した。</p>			
結果と今後	○今後、令和6年の花粉販売開始に向け、依頼先のJA実証園において果実の品質調査等を行うとともに、松野町における花粉生産者の安定生産指導に取り組む。			




左：配布サンプルと実証試験についての説明
右：調湿機能を持つ袋状の花粉容器


標 題	愛南町の青年農業者が今年度のプロジェクト活動を提案		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年4月21日	場所	愛南町御荘平城	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会(18人)	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班が活動を支援している愛南地区青年農業者協議会は、4年ぶりに総会を開催し、今年度取り組むプロジェクト活動計画を提案した。</p> <p>○1つ目は、昨年度、えひめ地域鳥獣管理専門員資格を取得した当班職員の指導の下、狩猟免許を持つ青年農業者がくくりわなの設置や運用実証を通して捕獲技術の向上を図るとともに、他会員の狩猟に対する関心を高め、狩猟免許取得の拡大を図るもの。</p> <p>○2つ目は、昨年度の地方局予算で実施した「河内晩柑」の縮間伐による省力化技術について会員の園地で共同作業を行い、数年かけて経過を観察した上で会員同士が自分の園地を縮間伐する際に協力し合うことを目指すものになっている。</p>			
結果と今後	○今回提案のあったプロジェクトについては、5月開催の役員会で正式決定される予定で、当班では引き続き活動支援を行い、青年農業者の技術習得と組織力強化につなげる。			
				<p>左：プロジェクト活動計画の報告</p> <p>右：青年農業者協議会の新会員</p>



標 題	「河内晩柑」の縮間伐による省力効果を確認		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年4月11日	場所	愛南町深泥	
指導対象	「河内晩柑」実証農家	連携機関	産地戦略推進室、JA えひめ南	
普及指導内容	○「河内晩柑」の縮間伐が収量や果実品質、作業性に及ぼす影響を調査する実証まで、農家を交えて収穫方法別の作業時間や生産物の調査を行った。			
結果と今後	<p>○その結果、縮伐による収量や果実品質への影響はなく、一方で、樹にはほとんど登らずに収穫が可能となり、慣行栽培に比べ時間あたりの収穫果数が約27%増加するなど作業効率の大幅な向上が明らかになった。</p> <p>○調査に参加した農家からも、「これまで密植により作業効率が低下していたことが分かった。今後は間伐にも取り組みたい」との話があった。</p> <p>○当班では、今回の調査結果をもとに、新規就農者や青年農業者を対象にした園地巡回や勉強会を行い、密植園の解消に向けた指導を行う。</p>			
				
縮伐区の調査		縮伐区の収穫作業		収穫作業の効率化


標 題	着果調査で今年のうめ生産量を予測		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月7日	場所	松野町内各地	
指導対象		連携機関	(株)松野町農林公社、松野町梅振興会	
普及指導内容	<p>○うめの開花時期及びその後の着果状況の把握は、早期の収量予測や販売計画策定につながることから、2月に引き続き計4園地で着果状況を調査した。</p> <p>○これは、青梅需要の新規開拓や販路拡大には営業活動が必須のため、早い段階での生産状況把握に向けて昨年から実施しているもの。</p>			
結果と今後	<p>○全体に昨年より結実が悪い傾向が見られたものの、着果数は昨年と同程度であった。</p> <p>○今後、5月上旬の生理落果が終了した時点で調査を実施し、2月（花数）、4月（初期果数）、5月（最終果数）の相関を検証、収量の予測精度を高めていく。</p>			
				
	結実状況を確認		前年との比較を聞き取り（達観）	

標 題	直売所向けスイートコーンの栽培指導を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月12日、25日	場所	宇和島市三間	
指導対象	直売所出荷者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○直売所における有望販売品目として、昨年度から早出しスイートコーンのハウス栽培実証に取り組んでおり、5月の出荷を前に現地打合せを行った。</p> <p>○12日には生産者とともに栽培状況を確認、一部発生が見られたアザミウマ類の防除徹底と旺盛な生育を維持する追肥等、収穫までの栽培管理を指導。25日に再度生育を確認し、収穫開始時期を申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○25日時点では問題なく生育していることから、初収穫は5月中～下旬を予定しており、露地栽培と比較して1か月程度前進化できる見込み。</p> <p>○販売の際は、「みまのこだわり農産物」として生産者と連携した販促活動を予定している。</p>			
				
	収穫までの栽培管理を指導		背丈程度まで伸長、開花（4/25）	



標 題	「媛小春」の早期着果実証をスタート		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月24日	場所	宇和島市吉田	
指導対象		連携機関		
普及指導内容	<p>○「媛小春」は食味の良さが評価される反面、樹勢が強く結実管理が難しいことから導入を敬遠されがちで栽培面積が伸び悩んでいる。そこで、樹勢抑制や早期結実につながる技術対策の実証ほを設置した。</p> <p>○比較的樹勢が弱い伊予柑を中間台木とした高接ぎにより、2年後の着果・収穫開始を目指している。</p>			
結果と今後	○今後、生産者と共に新梢管理や伸長量調査などを行い、樹冠拡大状況を定期的に確認するとともに苗木との生育差も把握する。			
 <p>切り接ぎ、腹接ぎなど処理箇所を通常より増やしている</p>				



標 題	グループ活動の今後の在り方について意見交換		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年4月27日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西生活研究協議会リーダー（21人）	連携機関	八幡浜市、伊方町	
普及指導内容	<p>○生活研究協議会活動の目的意識の低下がみられる中、今後の在り方について、会員が共通認識を持って意欲的に取り組めるよう、日頃の思いや今後の方向性などの意見交換を実施した。</p> <p>○生活研究協議会のリーダーを対象に、事前配布した意向調査をもとに、現在の活動状況や今後の目的などについて意見交換を行い、目標を明確化した。</p>			
結果と今後	<p>○会員から、「設立当初の目的である『生活改善』が達成され、一般サラリーマン以上の暮らしとなった」「会員は減少しているが、グループ活動で得たものは多く財産となっている」「できる限り活動を続けていきたい」といった前向きな意見が多く出された。</p> <p>○各グループの活動目的は、食文化の伝承活動、起業活動、消費者交流等と明確化できた。</p> <p>○今後は、これまで築き上げた実績をできる限り継続していけるよう支援するとともに、若い農業者と交流を図りながら技術伝承を行い、会員勧誘を図っていく。</p>			
 <p>意見発表する会員</p>				


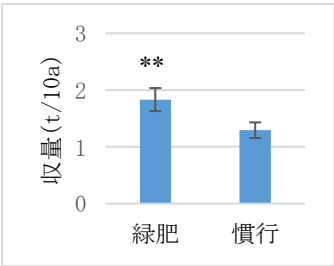
標 題	地区青年総会で鳥獣害対策の研修を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年4月24日	場所	にし川（大洲市）	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 員（11人）	連携 機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	<p>○大洲喜多地区の農作物被害の現状をはじめ、防護柵の適切な設置管理やセンサーカメラの活用方法等について、管内事例をもとに研修会を実施した。</p> <p>○ワイヤーメッシュ柵の下に隙間をつくらないことや、電気柵を適切な高さで設置しないと効果がないことなどを、成功・失敗の記録動画により説明した。</p> <p>○有害鳥獣の捕獲者が減少しているため、参加者に狩猟免許の取得を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○「防護柵をさらに強化するため、良い資材があればすぐに教えてもらいたい」など、被害対策に前向きな声があがった。</p> <p>○今後も、関係機関と連携しながら、当班が先頭に立って対策技術の指導を行い、被害減少を目指す。</p>			
				<p>左：青年農業者への研修会 右：電気柵に触れるノウサギ</p>

標 題	大洲いちご IPM プロジェクトチームを発足		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年4月24日、25日	場所	(株) Pi-Nokyo たいき（大洲市）	
指導対象	JA 愛媛たいきいちご部会員（30人）	連携 機関	JA 愛媛たいき、(株)Pi-Nokyo たいき、県病虫害防除所	
普及指導 内容	<p>○環境負荷及び労力の軽減とともに、経費削減が期待できる IPM（総合的病虫害・雑草管理）を推進するため、関係機関が集結し、チームとして活動内容を検討した。</p> <p>○JA は部会への情報提供や技術導入、(株) Pi-Nokyo たいきは実証ほ設置や研修生への技術指導、県病虫害防除所は防除技術支援、当班は大洲版 IPM マニュアルを作成することなど、各機関の役割を明確化した。</p> <p>○また、部会員に対して病虫害調査を実施し、発生状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、病虫害の発生が少ない環境づくり、病虫害発生予察情報の確認、多様な手段を用いた防除技術を実証し、大洲喜多地区に適した技術体系を組み立てる。</p> <p>○病虫害調査情報を速やかに提供し効率防除体系を整えるとともに、発生状況を数値化した農家台帳の作成により個別農家に対応した IPM 推進を図る。</p>			
<p>【(株) Pi-Nokyo (ピノキョ) たいき】 新規就農者の育成や地域農業の振興 などを目指すため、平成31年2月 に設立された JA 出資の株式会社</p>		 <p>実証内容を検討</p>		

標 題	大洲市青年農業者協議会が知事表彰を受賞		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年4月27日	場所	県生涯学習センター（松山市）	
指導対象	大洲市青年農業者協議会	連携機関	大洲市	
普及指導内容	<p>○当班が活動の企画立案、円滑な運営を支援・指導してきた大洲市青年農業者協議会は「第59回愛媛県若い農業経営者大会」において、優良農業実践集団知事表彰を受賞した。</p> <p>○コロナ禍中で取り組んできた非接触型の交流・情報発信活動を強化し、イベント出店、食農教育、地元飲食店とのコラボメニュー開発等、積極的な接触型交流活動を展開してきたことが評価された。</p>			
結果と今後	<p>○受賞を機に、更に活動にまい進したいと意気込んでおり、協議会の別称「アグリビト」の認知度向上や、特産「いもたき」のメディア活用によるPR、資材高騰対策として竹を使った農業用資材の開発などに新たに取り組む予定となっている。</p> <p>○当班は、引き続き組織活動を支援するとともに、個別指導を通じて将来のリーダーとなるよう育成していく。</p>			
				<p>左：若い農業経営者大会表彰式 右：喜びの表情を見せる会員</p>

標 題	小麦・はだか麦の防除本格化に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年4月5日	場所	西予市宇和地区（JAひがしうわカントリーエレベーター）	
指導対象	西予無人ヘリ防除組合連絡協議会オペレーター（20人）	連携機関	JAひがしうわ	
普及指導内容	<p>○麦の生育状況に応じた赤かび病防除と無人ヘリコプターの安全操作に関する講習会を開催した。</p> <p>○当協議会は、町内4地区で各1機保有し、農家からの申込みに応じて防除を請け負っている（令和4年延べ面積：水稻879ha、麦358ha、大豆195ha）。</p> <p>○今年産麦の生育ステージ等を情報提供し、開花期以降の適期防除に備えた。</p> <p>○また、安全講習を実施し、安全性等に配慮しながら防除作業を進めるよう基本手順を再確認した。</p>			
結果と今後	<p>○4月11日からヘリ防除を開始し、小麦は2回、はだか麦は1回実施する計画（状況に応じて特別防除を追加）。</p> <p>○当協議会は宇和町内の水稻・麦・大豆の防除を担っており、当班は担い手への負担軽減のため発生予察に応じた効率防除を推進する。</p>			
<p>【赤かび病菌】 人や家畜に有毒なかび毒であり、小麦に含まれるデオキシニバレノール（DON）の基準値が1.0ppmを超えると食品衛生法上、流通できない。</p>				
		説明する普及職員（右奥）		小麦出穂開花期（4/20）

標 題	にんにくの産地化に向けた推進会議を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年4月12日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	大野ヶ原にんにく組員（7人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○寒地系にんにくの生産量増加に向けた栽培技術確立のため、第1回産地化推進会議を開催した。</p> <p>○品質安定と生産量増加を目的に、養分吸収が盛んな鱗片分化時期における追肥資材の違いによる生育比較の実証ほを設置した。また、重要病害虫に対する防除方法と5月下旬の収穫に向けた管理方法の共有を図った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、実証ほにおいて葉枚数及び鱗片分化の状況を調査し、実証結果を共有していく。</p> <p>○各種補助事業を活用し、収穫作業の省力化に向けた機械の導入支援を計画しているほか、6月に同組合と共催して野村高校生を対象とした収穫祭を開催し、大野ヶ原にんにくの産地PRと理解促進を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：産地化推進対策会議 右：ほ場で生育調査</p>				

標 題	青ネギにおける排水改善・減肥に向けた緑肥作物の効果検証結果（1回目）		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月17日～	場所	西予市野村地区	
指導対象	(株) 百姓百品村	連携機関		
普及指導内容	<p>○水田を畑に転換した園地では、排水不良による生育不良が問題となっているため、緑肥作物（セスバニア）を導入し、排水性の改善効果を検証した。</p> <p>○また、畑地では、肥料高騰対策のため、緑肥導入による減肥効果を検証した。</p>			
結果と今後	<p>○排水不良園地の収量は、緑肥区（1.8t/10a）が慣行区（1.3t/10a）よりも高収量であった。</p> <p>○畑地での減肥効果については、緑肥区と慣行区で有意な差は確認できなかった。</p> <p>○ネギは通年で栽培しているため、6月頃2回目の収量調査等を実施し、効果の精度を高めていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p>青ネギ調査写真（水田）</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>収量調査結果</p> </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-left: 10px;"> <p>【緑肥】 新鮮な植物をそのまま土壌中にすき込み分解させ、土づくりや肥料として利用すること。</p> <p>【セスバニア】 マメ科の1年草。耐湿性に優れ、直根系で根が深くまで伸長するため、土壌の水を通す性質の改善に効果的。</p> </div> </div>				

標 題	「ひめの凜」の栽培講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年4月24日～4月28日	場所	県内7カ所（延べ8回）	
指導対象	ひめの凜認定栽培者ほか（557人）	連携機関	JA（全農、周桑、未来、東宇和、えひめ南、越智今治、今治立花）	
普及指導内容	<p>○県オリジナル育成品種「ひめの凜」の管理を徹底するため、生産者やJA営農指導員等（延べ224人）を対象とした栽培講習会を開催した。</p> <p>○過剰分けつの対策のため、田植え30日後の中干し開始を基本としつつ、移植後に分けつが進めば中干しを5日程度早めるなどの栽培管理ポイントを資料（マニュアル等）に基づき解説した。</p> <p>○また、基本となる深耕や有機質資材の使用方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○当グループでは、リアルタイムネットワークシステムを活用して、生育などの情報等を試験的に提供する。</p> <p>○また、6月には中干し講習会を予定しており、マニュアル等の資料の拡充を図り、令和5年産のひめの凜の高品質・良食味米生産につなげることをとする。</p>			
	<p>令和5年に向けて（ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○耕層：深耕の実施（15cm以上） ○土づくり：有機質資材（鶏糞、牛糞、豚糞、緑肥など）の積極的な活用 ○施肥量 <ul style="list-style-type: none"> ・日照や地力の高い畑地等に適切な施肥量を確保（例：3割減～約6kg/10a） ・中干し（早干し・遅干し）や分けつなどの栽培管理に活用 ○中干しの開始時期 <ul style="list-style-type: none"> ・田植えに気温が高くなり分けつが進めば、田植え後25日に中干しを早める ・雨天でも排水させる ・田植え10日後まで（日照の少ない場合は、早く開始可能な水） ○中干しの停止：排水は田植え後軽く程度（10cm程度） ○高温対策：高温が続く場合は、日中の分けつ止めや、夜間灌水を実施 ○適正な収穫時期 <ul style="list-style-type: none"> ・収穫期7～42日（40日を目安）（栽培温度900～1,000℃） <p>○収量確保：例年の本播実産量と同等（15.2t/ha）</p> <p>○田植え時期：5月下旬～6月上旬（6月15日頃まで）</p> <p>○病害虫対策</p> <p>○施設利用：いもち病、フツカ病、食害性害虫など害果の高いものを活用</p> <p>○病害虫の発生状況によっては、駆除剤の実施を検討</p>	<p>R4の平均気温・日照時間と品質への影響</p>		
	R5に向けてのポイント	気温と日照の影響	栽培管理ポイントを重点指導	

標 題	麦の採種ほⅡ期事前審査の実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年4月19日、4月21日	場所	松前町・伊予市（5地区）	
指導対象	麦種子栽培者ほか（35人）	連携機関	JA（全農、松山、えひめ中央）、中予地方局、伊予指導班、農水研	
普及指導内容	<p>○ハルヒメボシのⅡ期審査を行うにあたって、栽培管理状況を把握し、雑草管理や異品種、異株の除去等の改善事項を栽培者やJA営農指導員等に的確に伝えるために事前審査（180ほ場）を実施した。</p> <p>○今年度は黒節病の発生が散見されたため、本審査までにほ場外に持ち出すことを徹底するとともに、生産者やJAへ事前審査の調査結果と技術資料を送付し、技術対策の徹底を図った。</p>			
結果と今後	○5月1日、2日にはⅡ期審査を行うとともに、刈り取り計画を策定し、種子の安定生産につなげる。			
			<p>ムギ類黒節病について。</p> <p>病原菌：Fusarium graminearum (F. graminearum)</p> <p>発生時期：播種後から収穫前までの期間、特に播種後から出穂までの期間で発生しやすい。</p> <p>被害：穂の基部に黒い病斑が形成され、その結果として穂の腐敗や倒伏の原因となる。また、病斑が広がることで穂の品質が低下し、収穫量が減少する。また、病斑が広がることで穂の品質が低下し、収穫量が減少する。</p> <p>発生状況</p>	
	ムギ類黒節病		指導資料	

標 題	さといも省力栽培に向けた最新の土壤消毒・作業機械実演見学会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年4月14日	場所	東予管内さといもほ場・選果施設	
指導対象	生産者（(株)中温）、さといも産地技術指導者（40人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○県農林水産研究所との共催で、乗用農機でのマルチ同時土壤消毒作業の現地実演を行うとともに、(株)中温が独自に改良した作業機械等見学を行い、最新技術の習得と産地情報の共有を図った。</p> <p>○土壤消毒は従来の主な対象である土壤病害に加えて、最新の研究成果をもとにセンチュウ類を同時防除可能な薬剤を施用した。</p> <p>○作業機械は大規模化推進の課題の一つである人手による芋分離作業の省力化・効率化が図れるトラクター牽引型ドラム式分離機等を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「マルチ同時土壤消毒は、省力的で魅力があり、連作ほ場等では有効な技術である」「分離機は、予想していたより綺麗に分離でき、大規模生産者に向いている」との声が上がった。</p> <p>○今後、土壤消毒ほ場での生育・収量調査と施用効果の検証を行い、勉強会等を通じてさといもの安定性・生産性向上に向けた栽培指導に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>マルチ同時土壤消毒作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">トラクター牽引型ドラム式分離機（左：全体 右：分離機）</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543